

令和5年度

美 術

この試験問題は持ち帰ることができます。

なお、本問題で利用した著作物は、著作権法第36条により、
試験の目的上必要と認められる限度において複製したものです。
同目的以外の利用はできません。

(長野県教育委員会)

受験 番号	氏 名	
----------	-------	--------	--

(美 1)

【問1】 「中学校学習指導要領」(平成29年3月) 第2章 第6節 美術 に即して、次の(あ)～(お)に当てはまる語句を書きなさい。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) (あ)など内容や時間の(い)を見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、(う)な見方・考え方を働かせ、表現及び(え)に関する資質・能力を(お)に関連させた学習の充実を図ること。

【問2】 新入生に、1年間の中学校生活の流れを絵巻物で紹介する中学校第1学年の題材を構想した。各問いに答えなさい。

(1) 題材を構想するに当たり、指導する内容を明確にした。次の(あ)～(え)に当てはまる語句を、中学校学習指導要領(平成29年3月) 第2章 第6節 美術 に即して、書きなさい。

第2 各学年の目標及び内容〔第1学年〕

2 内容

A 表現(1)イ

(4) 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や(あ)などから主題を生み出し、(い)と美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ること。

B 鑑賞(1)イ

(4) 身近な地域や日本及び諸外国の(う)などのよさや美しさなどを感じ取り、(え)について考えるなどして、見方や感じ方を広げること。

(2) 指導計画の作成と内容の取扱いにも配慮した。次の(お)と(か)に当てはまる語句を、中学校学習指導要領(平成29年3月) 第2章 第6節 美術 に即して、書きなさい。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(3)ウ

日本及び諸外国の作品の独特な(お)、漫画や(か)、図などの多様な表現方法を活用できるようにすること。

(3) 絵巻物の特徴を確認する場を設けた。次の(き)～(こ)に当てはまる適切な語句を語群1から選び、記号で書きなさい。

- ・絵巻物は、(き)から(く)に展開する物語を場面ごとに広げて鑑賞し、次の場面を見るときは、(き)に巻き取っていく。
- ・紙を長くつなぎ合わせた長大な画面に、物語の場面をつなげて描いたものを(け)といい、一場面ごとに物語が完結したものを(こ)という。

語群1：〔 a 段落式 b 左 c 右 d 固定式 e 連続式 〕

(4) 鑑賞者に伝えるための表現の工夫を観点に、日本の「四大絵巻」と称される4つの絵巻物を比較して鑑賞する場を設けた。次の(さ)～(た)に当てはまる適切な語句を、語群2から選び、記号で書きなさい。

- ・「伴大納言絵巻」に見られる、同一画面に同じ人物や物などを複数描き、時間の推移を表している表現の方法を、(さ)という。
- ・「(し)乙巻」には、吠える獅子の声の響きが、線で表されている。
- ・「(す)」では、建物は、屋根を外して建物の中が見えるようにした(せ)で表し、人物の顔は、(そ)と呼ばれる単純化した描き方で表されている。
- ・「信貴山縁起絵巻」では、人々の様々な表情や動きを、(た)な描線を駆使して躍動的に描いている。

語群2：〔 f 吹抜屋台 g 自由 h 源氏物語絵巻 i 縮図 j 引目鉤鼻
k 異時同図法 l 鳥獣人物戯画 m 蒙古襲来絵詞 n 一時 o コピー 〕

【問3】 絵に関する各問いに答えなさい。

1 学校内に展示して、鑑賞して楽しむ屏風をつくる題材を構想し、教材研究を行った。次の問いに答えなさい。

(1) 屏風の役割や形式について確認した。(あ)～(う)に当てはまる適切な語句を、語群1から選び、記号で書きなさい。

- ・屏風はもともと広い部屋を区切ったり、背後を隠したりするために使う道具である。そうした実用性に加え(あ)性を兼ね備えており、屏風を替えることで、部屋の雰囲気や用途に応じて演出することができる。
- ・屏風の各面を(い)と呼ぶ。各面を曲げて開くことから、二面のは二曲屏風と呼ぶ。二曲屏風を一単位とすると、この一単位を一(う)と呼び、それを2セットにしたものを一双と呼ぶ。

語群1：[a 隻 b 装飾 c 耐久 d 扇 e 枚]

(2) 描くもの、配色、技法、画面構成、展示の仕方について追求するそれぞれの学習場面において、生徒が追求する見通しがもてるようにしたいと願い、作品を基に手だてを考えた。次の問いに答えなさい。

① 描くものや配色について追求できるよう、次の2つの作品を鑑賞する学習場面を構想した。次の文の(え)と(お)に当てはまる適切な語句を、語群2から選び、記号で書きなさい。

- ・尾形光琳の「燕子花図屏風」に描かれている燕子花は、(え)と緑青の2色で描かれている。
- ・長澤蘆雪の「白象黒牛図屏風」には、描かれたものの大きさや色などが(お)されて表現されている。

語群2：[f 対比 g 辰砂 h 相似 i パーミリオン(朱) j 群青]

② 着彩について悩む生徒の姿が予想されるので、尾形光琳が描いた「紅白梅図屏風」を鑑賞し、梅の木を描くために用いられた技法である(か)を体験する学習場面を構想した。(か)は、先に塗った墨が乾く前に、濃度を変えた墨を入れると複雑なじみができ、その偶発的な模様を意図的に用いて対象物を描く技法である。(か)に当てはまる技法を書きなさい。

③ 制作をするにあたり、画面構成に悩む生徒の姿が予想されるので、生徒が画面構成を追求するための視点ももてるよう、(き)、尾形光琳、酒井抱一の「風神雷神図屏風」の風神や雷神の位置を比較して鑑賞する学習場面を構想した。(き)に当てはまる作品1の作者名を漢字で書きなさい。

作品1「風神雷神図屏風」(二曲一双)

建仁寺蔵 京都国立博物館寄託

④ 作品が完成し、自分の作品を様々な人に見てもらえるよう、校内に展示したいと願うが、どう展示したらよいか悩む生徒の姿が予想された。そこで、展示の仕方を追求するための視点を生徒が捉えられるよう、「保津川図屏風」を鑑賞し、作品の置き方で見え方が変わることを感じ取る学習場面を構想した。この作品の作者名を漢字で書きなさい。

2 身近で使いやすい描画材をつかって絵を描く題材を構想した。次の問いに答えなさい。

(1) 題材の導入時に、グワッシュ(グワッシュ)と水彩絵の具を使って描かれた作品2と作品3について、鑑賞をする学習場面を構想した。これらの作品の作者名を書きなさい。

作品2「野ウサギ(うさぎ)」

作品3「芝草」

アルベルティーナ美術館蔵

アルベルティーナ美術館蔵

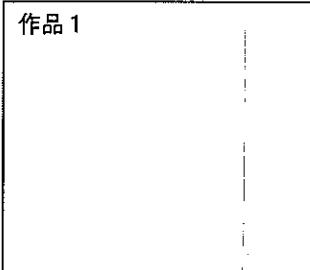
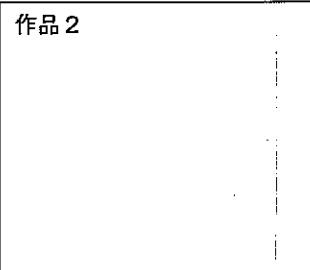
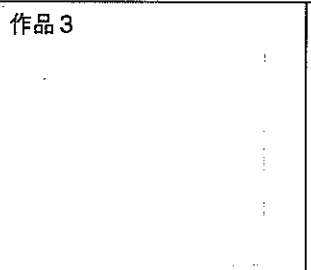
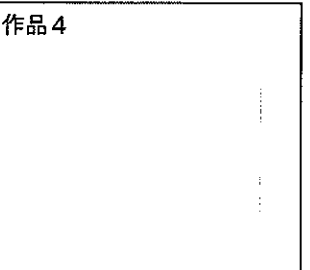
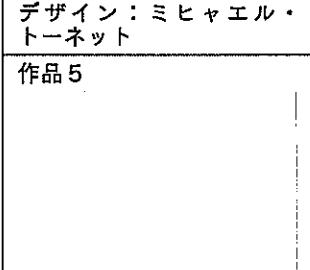
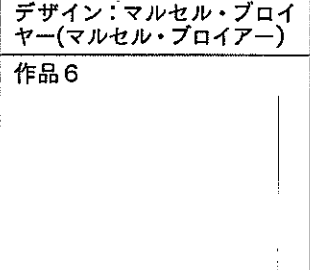
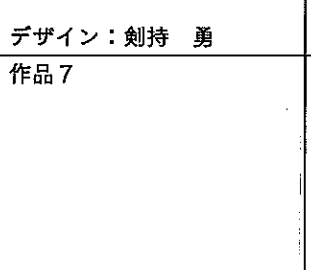
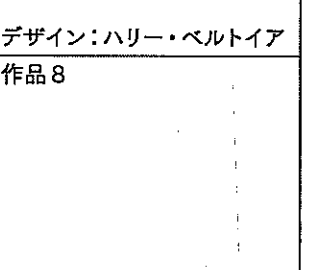
(2) 生徒が表現に生かせるよう、水彩絵の具の着彩の手順や技法とその効果について、体験を通して学べる場を設けた。次の(く)と(け)に当てはまる適切な語句を、語群3から選び、記号で書きなさい。

- ・水彩絵の具は、一度濃く塗ったところを後で薄くすることが難しいので、(く)、淡い色から塗り、少しずつ暗い色、濃い色を重ね、全体の濃度を上げていく。

・筆に含まれた絵の具の水分を布やティッシュなどで吸い取り、水気を切って彩色する技法を(け)という。かすれてざらついた感じが表現できる。

語群3：[k にじみ l 明るい色 m 明度対比 n ドライブラシ o 暗い色 p マーブリング]

〔問4〕 椅子を鑑賞する授業を構想した。各問いに答えなさい。

作品1  デザイン：ミヒャエル・トネット	作品2  デザイン：マルセル・ブロイヤー(マルセル・ブロイアー)	作品3  デザイン：剣持 勇	作品4  デザイン：ハリー・ベルトイア
作品5  デザイン：柳 宗理	作品6  デザイン：ヘリット・トーマス・リートフェルト	作品7  デザイン：ピーター・オブスウィック	作品8  デザイン：ピエロ・ガッティ, チェザーレ・パオリーニ, フランコ・テオドーロ

1 材料、つくり方、特徴、表現の意図について確認した。次の(あ)～(か)に当てはまる適切な語句を、語群1から選び、記号で書きなさい。

- ・作品1をデザインしたミヒャエル・トネットは、(あ)という木の繊維を切らずに加工する方法を椅子づくりに導入した。また、作品1は、(い)が可能のため、大量生産することができる。
- ・作品2をデザインしたマルセル・ブロイヤー(マルセル・ブロイアー)は、(う)からヒントを得て、家具の素材としてスチール・パイプを使ったパイオニアである。
- ・(え)の芯を手で編んでつくられた作品3は、剣持勇が生み出したジャパニーズモダン(ジャパニーズ・モダン)の代表作である。
- ・作品4をデザインした彫刻家のハリー・ベルトイアは、「彫刻制作においては常に(お)・形態・金属の特性の関係を追求するが、家具においても同じである」と語り、(か)による一連の椅子を開発している。

語群1： { a 曲木 b 寄木 c 汽車 d 自転車 e 藁 f ダイヤモンド g 籐
h 質感 i 量感 j 空間 k スチールワイヤー l 景色 m 分解 n 鋳造 }

2 形や色彩と生活環境や美意識との関連などを観点に比較して鑑賞し、生活や社会の中の美術の働きを考える場を設けた。

①～④の説明文は、作品5～作品8のどの作品を示すのか、数字で答えなさい。

- ① 角材と合板を用いて、垂直・水平を強調した幾何学的な空間構成でつくられている。
- ② 座面左右の縁がカーブを描いて立ち上がる格好が、蝶が羽ばたく姿のように見えることから作品名が付けられた。同じ形状の成型合板を左右対称になるように接合している。
- ③ 常に背骨をS字型に保って座れるように、人間工学に基づいて考えられている。
- ④ 固定した形態をもたず、座る人の身体に合わせて形が変わり、寝椅子にもなる。

〔問5〕 配られたモチーフ(植木鉢、ナツメ球、灰色の折り紙)を組み合わせる構成し、それぞれの質感をとらえて、鉛筆で画用紙にスケッチしなさい。